



月刊 動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260-0017 千葉市中央区要町2番8号(DC会館)
電話 { (鉄電) 千葉2935・2939番
(公) 043(222)7207番
FAX 043(224)7197番

2001.1.22 No.5256

「4党合意」を粉砕しよう!

「4党合意」不当労働行為事件 第一回調査行なわれる(1/17)

一〇四七名の解雇撤回闘争をめぐる攻防は、21世紀の冒頭から国鉄分割・民営化以来の正念場中の正念場を迎えている。

国労本部は、昨年7月1日の臨時大会で「4党合意」の受け入れを強行しようとしたが、闘争団・家族、組合員の實力の闘いと国鉄闘争を支援する多くの労働者の反対の声の中で大会は休会に追い込まれ、それ以降8月26日、10月28日と三度「4党合意」を採決できないという状況に追い込まれた。しかし、国労本部は、あくまで「4党合意」をこり押しすることを目的に1月27日に定期大会(統開大会)を召集している。

類例のない露骨な不当労働行為

これまでとあるごとに日刊紙上で明らかにしてきたように、「4党合意」は、国鉄分割・民営化や98年の5・28反動判決をはるかに上回るような露骨な不当労働行為の攻撃にほかならな

が採決できなかったように、当該の闘争団・家族、組合員は、「4党合意」をきっぱりと拒否し、闘う方針を待ち望んでいる。

「4党合意」粉砕し ニューロンティア21攻撃と闘いぬこう

しかも、JR東日本が昨年11月に出した「ニューロンティア21」は、「シニア制度」と検修・構内、設備業務の全面的な外注化攻撃を中心しながら、二〇〇五年度までに一万人を削減するという「第二の分割・民営化」攻撃をかけていきている。これとの闘いは、待ったなしの闘いになる。設備部門の外注化攻撃は、国労の活動の中軸になっている拠点職場そのものを外注化し、国労の運動そのものを解体しようとするものだ。こうした攻撃がかけられている状況の中で、「4党合意」により一〇四七名の解雇撤回闘争を放棄する組合が、「第二の分割・民営化」に大合理化攻撃と闘えるはずがない。そうである以上「4党合意」はどのような理屈をつけようとも絶対に認めることはできないし、粉砕する以外にあり得ないということだ。

「4党合意」は不当労働行為だ

国鉄闘争が激しい攻防を展開している状況の中で、「4党合

意」は労働組合に対する支配介入であり不当労働行為であると、して動労千葉が10月27日に東京都労委に救済申し立てを行った事件の第一回調査が、1月17日、15時から行われた。

動労千葉の申し立て以降自民党、運輸省、JR東日本は「自立体不合法」「使用者ではない」などとして申し立ての却下を主張してきた。しかし、第一回調査当日には、書面を提出しおきながら無責任にも被申立人側は誰一人出席しないという対応を行ってきた。

動労千葉は、こうした被申立人側の対応を厳しく指摘するとともに、新たに提出した準備書面及び審問開始を求める意見書の説明を行い、早急に審問(証人調べ)に入ることを迫ってきた。今回提出した準備書面では、①「4党合意」は、これまで政府機関や政党が労働組合への露骨で悪質な支配介入を行ったことがないという点では、前例のない事件であること、②「4党合意」は、国労に「JRに法的責任がないこと」を認めさせ、訴訟を取り下げさせるなど、労働委員会制度を否定するものがあり、不当労働行為の最たるものであること、③使用者と労働者が直接雇用関係にあるかを問わず、使用者は不利益取り扱いを禁じていること、④運輸省は、「4党合意」について「政府レベルで行った努力の結果」として深くかかわっていること、⑤「JRに法的責任がないこと」を認める」という部分は、JR東日本の主張によって入れられたものであり、不当労働行為責任

が発生すること、等々について主張してきた。

しかも、「4党合意」の撤回を求めて国労組合員が行っている労働委員会闘争については、大阪地労委において証人調べに入るものが決まっていること、そして何よりも、1月27日に国労定期大会(統開大会)が開催されるといふ切迫した情勢になっていることなどを説明し、次回から審問に入ることを迫った。しかし、都労委側は、この日で審問(証人調べ)に入ることを選定せず、逆に①国労に対する「4党合意」が動労千葉に対する不当労働行為であるとの法的根拠、②JR東日本が「4党合意」の当事者であるとの法的根拠、③書面で主張した裁判例と本件の具体的関係、④「4党合意」が不利益取り扱いである法的根拠、の四項について釈明を求めてくるという姿勢であった。

動労千葉は、こうした都労委の姿勢に抗議し、次回期日(3月中旬)において主張することを明らかにし、第一回調査を終了した。

動労千葉は、「4党合意」受け入れは労働組合としての死を意味するものであり、絶対に認めることはできないとの立場をあらためてはつきりさせて闘いぬくものである。一〇四七名の解雇撤回―「4党合意」粉砕! 都労委闘争勝利―ニューロンティア21―検修・構内外注化阻止! JR総連解体―組織拡大に向けて全力で闘いぬこう。